

5 地域活性化のための担い手の育成

齊藤俊幸氏（イング総合計画株式会社代表取締役、地域再生マネージャー）より、横須賀市や荒尾市等での地域活性化に携わった経験を踏まえて、「地域活性化のための担い手の育成」について話を伺った。

2003年に小泉内閣で地域再生事業が始まり、事業の一つとして「地域再生マネージャー事業」があった。私はその1期生で、地域再生マネージャーとしては12年目に入っている。

麻生総務大臣の「地域再生支援プラン」に、地域再生マネージャーは「・当事者として地域に入り、市町村等に常在・長期の招へい・成功報酬制度の採用」と書いてある。私はここに書かれているように、支援する地域に11年間住み、役所に席をおいて活動している。イング総合計画株式会社は、私1人の会社のため自宅で34年間活動を続けている。

1. まちなか研究室

- 関東学院大学で非常勤講師をしていたときに、横須賀市から追浜商店街のまちづくりの依頼があつて、報告書をつくり、商店街、県、市町村へ提出した。そのときに「報告書に計画はあるが実現していない。報告書だけで帰ってしまうのか。」と言われたため、300万円を出資して居酒屋の跡地に「まちなか研究室」をつくり、スタートした。
- 研究室の家賃が15万円で300万円はいずれ底をつくと思い、研究室1階の6畳間にワイナリーをつくろうと商店街に提案した。1カ月に1回のボランティアでワインを仕込み、その収益でまちづくりを行ったので、補助金の要らない商店街になった。今も活動を続け、ワイナリーの収益で30万円程度の家賃を払っている。
- ふるさと財団から、熊本県荒尾市で横須賀市と同じような活動をしてほしいという依頼があつた。荒尾市は三池炭鉱のまちで、2004年の有効求人倍率0.33は、日本最低を記録した。この中で、6畳一間のワイナリー、職能訓練の教室等のまちなか研究室をつくるために活動を開始した。
- ワインをつくるタンクは3万円で、高額となる航空便を避け、船便で3ヶ月かけてカナダから取り寄せた。充填機は、石川県でつくっている中古品で、大体全部で約60万円でワイナリーができた。

2. 徒歩圏内マーケット

- 職能開発の教室を行う予定だったが、地元から八百屋を開店してほしいという依頼があった。そこには、1キロ先に大きなショッピングモールがあるが、自動車の運転が難しい等の理由から、野菜や日用品の購買が困難な高齢者がいた。
- これは2005年のことだが、こういう人たちがいる、ということがわかり始めた。そこで荒尾市の中で、高齢者が孤立している地域がまだあるのではないかと調べたところ、有明地区があった。
- 有明地区では、米蔵の下屋部分を使って直売所をつくるということでスタートした。この直売所は、野菜に加えて加工品を販売するため、保健所の指導により壁と天井をつくらなければならなくなった。みんなで議論したところ、加工品を置く場所だけ壁と天井をつくることになり、約30万円で直売所ができた。ここは毎日15万円の売り上げがある。
- ここは、2005年の台風13号で壊れてしまったが、地域の人が、みんなでお金を出してやろうと言ってくれた。マーケティングレポートよりも、現場での実際の売り上げのほうが地域の人たちには理解しやすい。
- コミュニティレストラン「梨の花」は、お昼のみの営業で17席だけだったので、20食を売るのが限界だった。それでは、家賃も人件費も出ないので、やめることになったが、ここで働いていた女性の半分以上が、どうしてもやりたいというので、場所を変えて山の中で営業した。お昼だけで50食、夜は予約1組だけにしたら、予約が全部埋まり成功した。けがの功名といえる。
- このように、台風で倒壊しても補助金なしで建て直す等の創発を起こして、地域がどんどん強くなり担い手ができた。
- 自分のお店で、一つずつパンを売っても1日8万円ぐらいしか売れない。ところが、徒歩圏内マーケットが3店舗もあると24万円も売ることができる。店主も売り上げが安定し自立することができて、他のお店もできるということになる。
- この中で小さな資金循環をつくろうと、加工品をつくり始めている。これはいわば6次産業化の初めである。「のりやののりこばあちゃん」は、おばあちゃんの子どもへのメッセージが書いてある最高級の海苔である。これは、熊本県優良新商品審査会の金賞を受賞した。この海苔屋は、今も続いている。芋焼酎「小岱」は、30万円で畑のイモを全部買うため高くなるが、地域の農業を守るために販売した。ブドウ酒、焙煎コーヒー、みかんジュース、お酢、ポン酢、こういうものをどんどんつくり、店舗も7店舗つくった。

- 1,000万円もかかっていない中で、年間1億円ぐらいの売り上げがある。大体200人ぐらいの高齢者が、1カ月に3万から5万円を手に入れることができる。
- これらの店舗を徒歩圏内マーケットとして、熊本県商工労働部にマニュアルをつくっていただいた。この取組みが、2005年厚生労働省のパッケージ事業シンポジウムで、優良事例として発表の機会をいただいた。
- 荒尾市からは、こういう内発型雇用創造が出てきた。この取組みには、2006年3月衆議院内閣委員会で、渡辺大臣から「荒尾の地域再生事業は成功事例」というような答弁をいただいた。その後、私は、内閣府で地域活性化伝道師を授与され、総務省の地域力創造アドバイザーにも就任した。荒尾市の地域は、地域づくり総務大臣表彰を受賞した。
- 民主党政権では、フードデザート（食の砂漠、食料難民問題）、買い物難民の問題が出てきた。経済産業省中心市街地活性化室が作成した買い物難民のパンフレットの中に、先進事例として徒歩圏内マーケットを取り上げていただいた。

3. お金をかけない起業

- 私は、工業高校・工業大学卒業なので、図面を書くこと、機械をつくることは非常に得意で、日本酒吟醸タンクの会社、石川県の酒充填機の会社等にお世話になり、様々な機械をつくってきた。
- 高知県本山町では、体育館の跡地で米焼酎をつくっている。米を蒸す蒸し器は、15万円の中古のまんじゅう蒸し器を使い、蒸留器は、北海道の薄荷記念館で薄荷蒸留器を見つけたので、これを改良した。麹は電気毛布で温めてつくる。蒸留していくうちに「天空の郷」という米焼酎ができた。これが、内閣官房と農林水産省の「ディスカバー農山漁村の宝」に選定された。
- 例えば、1個150円の商品が、100個売れば1万5,000円になる。これに気がつくと、地域の人たちが投資してくれる。台風13号で壊れた直売所の建物を再建するため、地域の人たちが400万円も自腹を切った。これは社会実験をしているから信用してもらえる。私は、現場でお金のかからない方法により、ずっと社会実験を繰り返してきた。
- お金をかけずに起業することができる。補助金をもらおうと、直売所は最高級の設備でつくりがちで、そうすると組織が成長しない。お金をかけないので、お金が入ってきて、次の投資、次の投資ということになる。高知県馬路村も、3回投資して

あそこまで来ている。

- やはり最初の値踏みが大事で小さく生んで大きく育てる、こういうことを国はできない。

4. スーパーグローバルハイスクール

- 秋田県由利本荘市で、英語合宿を継続して行っている。最初は、総務省の地域力創造アドバイザーとして、秋田県由利本荘市に行った。四国からプロペラ機等を通うことを4年間続けた。
- 秋田県由利本荘市で、7年前に行ったのが第3セクターの再生計画である。1市7町で広域合併した由利本荘市は、9つの第3セクターを抱え、そのうち7つが赤字になり、毎年合計1億円の赤字を計上していた。実は、人件費等見えない部分もあるので、赤字は1億円以上になっていたと思う。
- 総務省から赤字の第3セクターの解消について指導があったが、関係業者がいたので、地域経済のことを考えると延命措置が必要だった。そこで、年間600万円の赤字を計上しているホテルユースプラトリーの再生に向けて、教育プログラムを立案した。
- 内容は、国際教養大学と共同で行う高校生を対象とした英語の強化合宿であった。秋田県の公立大学法人国際教養大学は、9月入学を実施して、授業はすべて英語で行い、海外留学1年を必修科目にするなど、特色ある取組を進め、理想の人材育成ができていた。就職率は100%で、TOEICの学生平均は900点という実績もあり、今、全国でこのモデルが展開されている。
- 国際教養大学の故中嶋嶺雄前学長は、秋田県でその夢を実現し、彼の理想が全国に大きなインパクトを与えた。東京大学も9月入学を検討し、ギャップイヤーも全国で動き、英語の授業もいたるところで始まっている。
- 国際教養大学にジャンプスターター(地域再生)というサークルをつくり、高校生を対象にした英語合宿をしようということになった。オープンキャンパスとインターネットを使い、7万円の講習費で受講者を集め、正月・年末の冬2回と夏休み、春休みに実施し、受講者は200人になった。
- 合宿の内容は、30分の連続した講義、小集団補習を繰り返し、英語論文を書くことである。英語論文で、感想ではないので、どうしてそうなるかという理由を、うまく大学生が教えている。年5回開催し、延べ1,000泊を実現した結果、国際教養大

学へ15人が合格した。国際教養大学は、就職したい高校生には有名な大学だったので、たくさんの高校生が参加した。

- そのような活動の中、国際教養大学の学生が、「英語は秋田の地域資源、英語王国秋田」と言い始め、これは、テレビ・新聞で大きく取り上げられた。
- 今、学力日本一と言われている秋田県東成瀬村が、「グローバル夢ミーティング」という、小学校6年生と中学3年生を対象とした、英語の授業合宿を始めることになった。
- 秋田県は、NHKで「英語合宿で日本一を10年後に目指す」と言った。これはよほどの自信を持って、英語合宿を行っているということだと思う。由利本荘市も、子ども向けの英語合宿もスタートしている。
- 徳島県、大分県も同じことをしている。この6、7年の間に、全国でどんどんグローバル化が波及していった。こういう状況の中、文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール」が昨年(2014年)から登場することになった。

5. 高校の魅力化

- 条件不利地では、島根県立隠岐島前高校が「高校の魅力化」をスタートし、島留学を進めた。内容は、授業改革、学力の保障、寮の完備、公営塾の設置等である。こういうことが今、全国の地方創生戦略の中にも入っている。この大きな引き金を引いたのが、隠岐島前高校である。
- この高校は、ここに高校がなくなってしまうと島の存続自体が危ない、ということに6年前に気がついた。「高校の魅力化」の活動により、28人に減った在校生が59名に増え、今は85名と聞いている。人口の争奪戦が始まったということである。「生き残りをかけた変異」が起きている。高校のブランド競争が始まっている。
- 鹿児島県立楠集中高一貫教育校は、宇宙航空研究開発機構(JAXA)と協定し宇宙工学が学べるようになった。東京の説明会に3,000人参加したと聞いている。兵庫県立村岡高校はクロスカントリー、滋賀県立信楽高校は陶芸に力を入れている。公立高校の入学者に居住地制限を設けていないので、都道府県の判断によって全国公募が可能になっている。
- 私も去年、地域活性化センター主催の「魅力化による高校生き残り」と地域活性化」土日集中セミナーに出席したところ、全国から、統廃合危機の高校を抱える自治体がたくさん集まってきた。

- 高校存続危機の問題は、教員は県職員、行政側は市町村職員で話し合ったことがないということにある。この間をつなげる人がいないため、文部科学省中央教育審議会が、地域と学校とをつなげる検討部会を本年(2015年)からスタートさせている。この検討については、総務省も行わなければいけない。
- 北海道三笠高校は、2012年に道立が廃校を決めたため、道立から市立に移管し、普通高校から食物調理科の1クラスだけに変わった。今は、競争率2.2倍と道内一を誇っている。
- 今、国は「コンパクト化」と言っているが、私は「ダウンサイジング」と言っている。コンパクト化で無居住地域を増やし、畳み込んでいっていいのかと思っている。国土交通省を中心に、ランドデザインが策定されたが、最初の段階でコンパクト化しかなかった。ネットワーク化はできたが、管理組織の移管で市町村に任ずることが本当にいいのか、という大きな問題提起がある。
- 長野県白馬高校も存続危機にある。ここは、観光学科を開設し、生徒を全国募集することで存続する考えがある。
- 北海道足寄高校は、振興策として放牧酪農科の設置を進めている。鹿児島県の指導進学重点校になった鹿児島県立大口高校は、東京大学・京都大学等に合格すると懸賞金を出すことにした。しかし、今、高校でこういう人口争奪戦を行っていいのか、という議論も始まっている。
- 村立北海道おといねっふ美術工芸高校は、北海道でも一番人口の少ない音威子府村に設立されている。全校生徒120名の小さな高校だが、公募展、美術展で、毎年多くの生徒が入選するなど、北海道美術界の将来を担う人材を輩出する学校という評価を得ている。
- この高校は、定時制高校としてスタートしたが、志望者が減り存続危機となった。そのときに「木材加工を主とする工芸・技術教育の推進」を教育振興策と定め、インテリア工芸の定時制高校として新たな挑戦を始めた。
- 音威子府村では、校舎・寄宿舎への投資額(期間15年で8億円)と、村づくりの柱に据えた芸術・文化および高校関連予算について疑問の声が上がり、地域を二分する論争が始まった。しかし、大学教員によるこの高校の授業は、高校教育の活性化のみならず、生徒の学習意欲や可能性の向上とキャリア教育に大きく貢献した。生徒は、ほぼ全員が村外から来ているので、寄宿舎で生活をしている。この高校の関係者は、生徒、教職員とその家族を加えると約170名となり、村の人口の2割を占めている。視点を変えると、毎年40名の新規住民を受け入れ、地域に元気を与える

住民が170名定住し、3万6,000泊の宿泊と10万8,000食の食事が連続するシステムができています。村立おといねっふ美術工芸高校は地域内循環経済の中心となる組織であり、何よりも地域に希望と活力を与える、かけがえのない学校に成長したということである。

- 千葉県山武地域には公立高校が6校あり、今は、各高校とも生徒数は定員に達している。しかし10年後には人口減少により、6校のうち3校は廃校になることが懸念されている。このため山武市は、千葉県立松尾高校を高齢者福祉に特化した高校として、グローバルエイジングに着目したスーパーグローバルハイスクールに申請し指定校に入った。
- 申請内容は、2025年に団塊世代が後期高齢者に入るため、人材不足から介護労働者の市場開放は必須だが、今、始まっている看護師・介護福祉士候補者の海外からの受け入れは、日本語が難しく続かない状況にあるため、EPAを締結し、市や病院の奨学金で、高校生から日本語・福祉教育を受けていただき、その後地元で5年間勤務することで奨学金をなしにしてはどうかということで検討している。松尾高校は、地域にとって必要な高校になった。
- 大阪府立能勢高校は、地域の交通条件が悪く、高校に進学できない現状を打開したいという住民の強い要望により、60年前に府立として第49番目につくられた。しかし今は3年連続の定員割れで、大阪府の条例により統廃合の対象とされている。ここもスーパーグローバルハイスクール指定校になり、グローバルな農業のあり方を探ろうとしている。
- 大阪府では、日本創成会議の消滅可能性都市として、能勢町が全国で第24位、豊能町が第27位に入っている。東京ほど手厚く地域振興をやってこなかったつけが、大阪府にきている。
- 高校が存続できないと、地域から5、6億円が逸出してしまうため、応援団がつくられることになり、隠岐島前高校の公営塾教育ディレクターの藤岡氏と私にも声がかかった。「よのなか科」という藤原和博さんの課題解決型授業を藤岡さんが始め、私がスーパーグローバルハイスクールの申請書を手伝うということの二本立てで進んだ。
- 文部科学省は、能勢高校を「高校を中心にまちを活性化するという点で意義深く、全国と同じような問題を抱えている高校のモデルとなる可能性がある。着眼点は興味深い。大変野心的なプログラムとなっており、大変おもしろい取組みとなっている。」と評価した。

- 昨年(2014年) 能勢高校は、SGHアソシエーツに指定され、今年はやっとスーパーグローバルハイスクールに指定された。
- 1年先に大阪府では、大阪府立北野高校、大阪府立三国ヶ丘高校がスーパーグローバルハイスクールに指定された。北野高校でスーパーグローバルハイスクール中間発表会があった。評価者から厳しい指摘の出る場面もあったが、グローバル化教育の現場の貴重な第一歩を大阪府の高校で発信している。
- 三国ヶ丘高校では、卒業生の日本サッカー協会最高顧問川淵チェアマンが、英語での中間発表に参加して「どうして日本は、こうした教育が今までできなかったのか」と感嘆していた。
- スーパーグローバルハイスクール連絡会で、島田久仁氏の講演があった。島田氏は大阪市出身で、国連職員、現在は環境省の参与に就任し、国際交渉術、コミュニケーション技術について、ハーバード大学、ケンブリッジ大学などで教鞭をとられている。
- 島田氏は、「グローバル人材とは、英語を話せることも大切であるが、自分の意見を述べることができ、その意見のもとになる明らかな理由を持っていることが重要。」と言っていた。「明らかな理由」、これは国際教養大学で教えていた。
- また、「他国の文化を理解することが大切であるが、日本の文化や自分のまちなことを語れることが最も重要」とも言っていた。生徒にとって、世界で活躍する、いわゆるグローバルな人材から直接話を聞くこと、外国などの現地に行ってみることが大切だと思う。
- 文部科学省は、この後、スーパーグローバルハイスクールを前段階として、国際バカロレア校の認定を進め、認定校を200校つくると言っている。バカロレア校になると、試験を受けずに海外の大学、ハーバード等にも入っていけるインターナショナルスクールの資格ができる。
- ソーシャルビジネスは、地域で「経済的価値」と「社会的価値」の創出を目指している。「規模の経済」から「価値の経済」への移行である。アメリカの経営学者マイケル・ポーターが「地域に張りついた事業だからこそ存在価値がある」と言っており、「共通価値の創造」と呼んでいる。
- 広島県立世羅高校駅伝部では、監督がケニア選手をスカウトするための渡航費は、町民カンパで毎年集めている。駅伝部は、世羅町民の誇りということが町民共有の価値観になっている。こういう橋渡しをやっていかなければいけないと思う。

- 補助金不要のまちづくりをする商店街、追浜こみゆに亭の皆さん、高齢者のための徒歩圏内マーケットを支える、荒尾市の青空中央企画の皆さん、日本最小設備でくず米を使った米焼酎をつくるばうむ合同会社の皆さん、商工会青年部の人たち、秋田県由利本荘市で英語合宿でグローバル化の起点をつくった国際教養大学の学生たち、こういう人たちが、地域の担い手として、今、活躍している。

- どれも「小さな一番をつくれ！」ということである。そういう計画をつくっていないと地方創生戦略は、同じ結果・内容になり、失敗してしまう可能性が高いのではないかと思う。

以上の話を伺った後、質疑応答、意見交換が行われたので、以下に主なものを掲載する。

(質問) 大学の数、大学のある都市は限られているので、大学を核にした地方活性化というのはなかなか難しい。ほぼ義務教育に近く、日本中にある高校に視点を当て、実際に行われているというのは、すばらしいと思う。この動きというのは、かなり広がりつつあるのか。

(回答) 広がってきている。国際教養大学を起点としたグローバル化の流れ、隠岐島前高校を起点とする魅力化の方向で、変異が具体的に起こっている。

地域をつなげていくことが、成長の原資だと思っている。縁辺部の高校、特に北海道を中心にすばらしい変異が起きている。これは日本の成長にとっても大切な出来事ではないかと思う。

全然競争力のない人たちが生まれてきていて、これは教育が悪いのではないかと気がつき始めた。学校の先生もそうだが、課題解決型、いかに切り開くかということができない人が多過ぎて、これを今、養成するのが急務だと思う。高校の魅力化のようなことが起きていることに、しっかり注視しておく必要がある。

(質問) 大学に進学してしまうと地元を出る可能性がある。進学しないことによってそこに定着して、高校の教育内容に特徴があつて、ある程度すたれないで残ることが、地域から見ると意義があるということになるのではないか。

(回答) 進学校ほど魅力のないものはない。縁辺部の高校で、福祉推進教育等の特色のある授業が始まっている。地方の縁辺部の高校に魅力がある。国際バカロレアの認定校も、郊外にインターナショナルスクールを持ってきたほうがいいのではないかと思う。

(質問) 地域事業の特性に対応する形で高校が特化していくという教育の仕方と、産業の特性とは対応していないが、教育のほうで新たに特徴を見出すという、2パターンがあると理解したが、この二つの違いが出てくる要因・背景には何か特徴的なものがあるのか。

(回答) 私は、国際教養大学の学生が「秋田の地域資源は英語だ」と言ったことに驚いた。「英語王国秋田」がどんどん伝播して、秋田中で英語合宿が始まった。秋田の特色、地域資源は英語、ということが現実にあらわれた。

国際教養大学も、地域のコンテンツとは全然関係がない。デザイン・コンセプトとして、地域資源だからといって深めていくことは、かえって危険なような気

がする。

もう少し違う質を持ったプログラムの構築の仕方があると思う。それはみんなでも申請書について議論しているときに出てくることが多い。今回はスーパーグローバルハイスクールについて高校で話し合ったときに、能勢高校・松尾高校の反応がよく、いい議論ができた。「高齢化にシフトしていく」、「グローバルエイジング」こういうような言葉が見つかったときに、みんなが一致団結した作業ができて、整合性のとれたプログラムができた。これが大切なのではないかと思う。

漁師町だから水産高校というのはわかるが、実態はそうではない。魚の7割は、地域外から来る等で、卒業生は、漁師・航海士にならず、別の職業に就いている。高校と住民が話したこともないということが多いため、今はここをつなげていく作業がとても大切だと思う。

(質問) 能勢高校の教育の特色をまちを活性化するというところに結びつけて、文部科学省に評価されたということだが、高校教育の活性化を能勢というまちの活性化に結びつけるというあたり、どういう形で、どういうふうに行っているかを教えていただきたい。

(回答) この1年の間に能勢町付加価値創造協議会を設立していただいた。その協議会との連携の中で事業を行う仕組みができています。

座学で教えるのではなくて、地域にある問題・課題の延長上にあるような、グローバルなテーマを見つけてプログラムをつくった。

例えば、我々が食べるエビは、マングローブの森を伐採してつくったエビの養殖場からきている。我々があのマングローブの森を壊している、どうするか、というような課題解決型の授業を投げかけている。我々が何か手伝えることはないかという議論をして、マングローブを植林しよう、農業ハウスを向こうでつくろう、というような話を動機づけて、現場に働ける人をつくっていくというプログラムになっている。

(質問) 最初に創発についてお話いただいた。これからは地域起こしの中で創発が主だというお話だが、それはかなり偶然的なものなのか、あるいは創発を起こすような何か仕組みがあるのか、そういうものは、そもそもつくれるものなのかをお伺いしたい。

(回答) 私は、上棟式等で餅を投げる、餅投げに似ていると言っている。あれは、定常的に流れてくる幸運で、ラッキーをつかみ取る姿勢なくしてはつかめない。

これが成立したらすごい、というのがわかる立ち位置、ポジショニングというのはとても大切なのではないかと思う。